

# 10

## 走行データを用いた運転能力の変化推定

～毎日の走行から危険運転を見つけます～



### どんな研究

多くの高齢ドライバーは認知力や判断力の低下によって、事故を起こすリスクが高まっています。そこで本研究では日常の運転の中から走行場所や走行速度の特徴を探し出し、**特徴の経時変化を調べることで運転能力の推移を可視化**する手法を提案します。

### どこが凄い

自動車を利用する際に、通勤や買い物など決まった経路を運転することが多くあります。そのような**毎日の走行データのみを用いて**急な加減速や制限速度超過など、事故につながる**危険な運転が増えていないか知る**ことができます。

### めざす未来

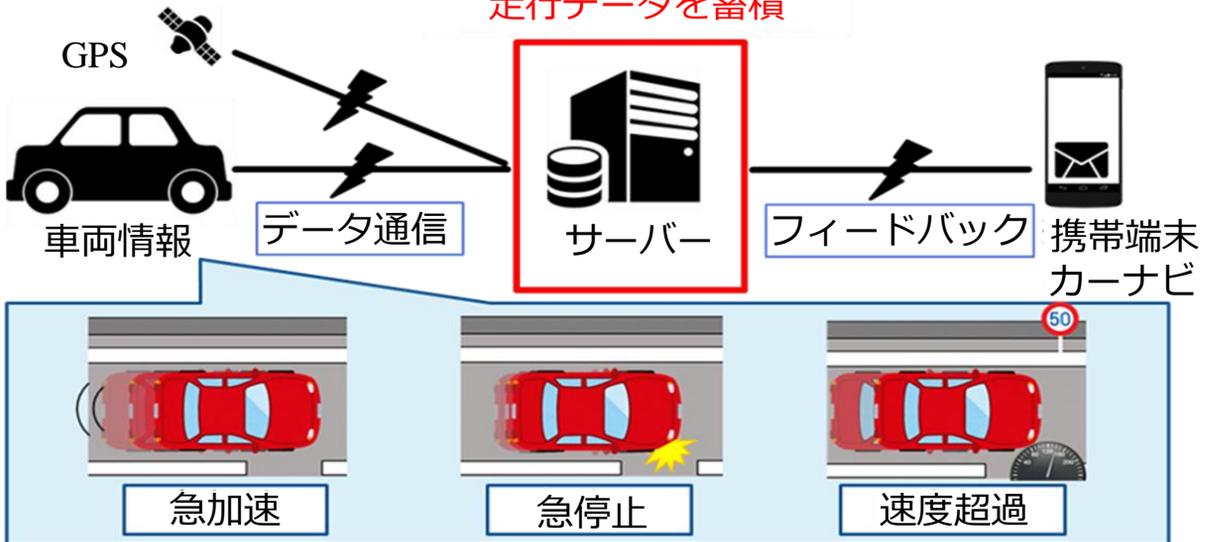
高齢ドライバーの運転能力を可視化することで自身の運転の水準を把握することができ、**高齢者講習の受講や免許返納などを行う際の基準**として活用が期待されます。携帯端末やカーナビにフィードバックをすることで直ちに運転を見直すことも可能です。



走行データの例

日時	場所	速度
19:30		60.1km/h
20:08		58.6km/h
		⋮

### 走行データを蓄積



### 関連文献

- [1] 李曙光, 山邊茂之, 佐藤洋一, 平沢隆之, 須田義大, "テレマティクスデータ活用を想定した運転操作レベルの判別", 生産研究, Vol.65, No.2, pp.205-210, 2013
- [2] 木村一裕, 清水浩志郎, "高齢ドライバーの運転能力と走行環境評価に関する研究", 土木学会論文集, No. 518, pp.69-77, 1995